

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は40名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモート（Zoom）での開催となりました。そのような中、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎をかねて対面で実施し、自治医大生、県外卒の学生も参加できるようZoomも対応できるハイブリット方式で、また、第11回ゼミは、6年生の卒業を祝って追出しゼミとして対面で実施しました。

1年生	5人
2年生	5人
3年生	6人
4年生	7人
5年生	5人
6年生	12人

II 活動報告

◆ 第1回地域医療ゼミ(2021年4月15日/対面とオンラインのハイブリット方式で開催)

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生と自治医大の1年生の自己紹介、学年を超えたグループを作って歓談を行うなど、学生間の親睦を深めました。

◆ 第2回地域医療ゼミ(2021年5月20日/オンラインにて開催)

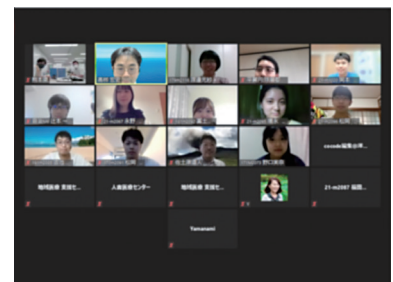
漫画「19番目のカルテ」を読んで参加者で感想を述べあうなどディスカッション(マンガメデュケーション)を実施しました。コロナによりキャンパス内立入禁止となった為、急遽オンラインで開催可能なマンガメデュケーションへ変更でしたが、総合診療医の仕事について参加者の理解が深まることを期待しています。

◆ 第3回地域医療ゼミ(2021年6月17日/オンラインにて開催)

「臨床推論」をテーマにゼミを実施しました。参加者は、臨床推論のやり方についてレクチャーを受けた後、グループに分かれて、実際の症例を基に診断仮説を立てて各グループの考えを発表しました。

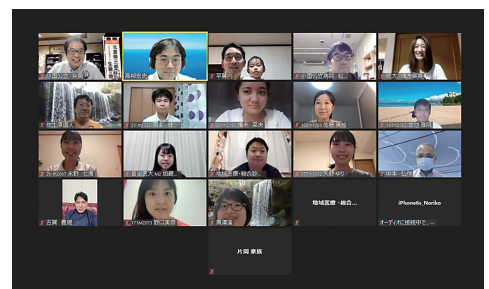
◆ 第4回地域医療ゼミ(2021年7月15日/オンラインにて開催)

修学資金貸与学生の企画で阿蘇地域の地域医療について考えました。阿蘇地域を3つに分け、3つのグループに分かれた学生たちが、それぞれアウトブレイクルームを活用してディスカッションを行い、各地区の特色に応じた問題点等を話し合いました。



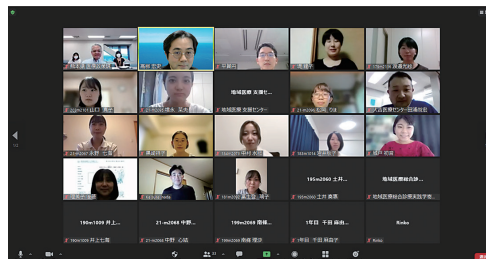
◆ 第5回地域医療ゼミ(2021年8月24日/オンラインにて開催)

新型コロナウイルス感染症に脅かされている現在において、小国町出身の北里柴三郎先生の功績から人々がどのように感染症と向き合ってきたか、小国公立病院の片岡恵一郎先生に、北里柴三郎先生の生涯、功績について講演いただきました。また、小国町で日々コロナ対応されている小国公立病院の松田圭史先生に日々の新型コロナウイルス対応についてお話しいただき、現在の新型コロナウイルス感染症との向き合い方を学びました。



◆ 第6回地域医療ゼミ(2021年9月16日/オンラインにて開催)

医師としてのキャリアと義務の両立だけでなく、ライフイベントが重なった場合にはどのようにできるのか、そのために準備は何か必要なのか等々の学生の疑問に答えるため、地域の病院でご活躍中の公立多良木病院の堤 龍子先生をお招きして、女性医師としてのキャリア・ライフプランについて講演いただきました。



◆ 第7回地域医療ゼミ(2021年11月27日/対面にて開催)

令和2年(2020年)1月に策定された『熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム』の更新にあたって、変更しようとするコース案の内容について、対象となる学生や医師の意見交換会を実施しました。

◆ 第8回地域医療ゼミ(2021年12月16日/オンラインにて開催)

今回は、自治医科大生の企画で、実施しました。自治医科大の概要について説明を受けた後、地域医療で必要と思われるスキルや学生時代にやっておくべきことは何か、などについて参加者がグループに分かれて話し合いを行いました。また、地域医療の現場で活躍される先生、また、最先端の研究活動を行っておられる先生自治医大卒の4人の先生方へのインタビューも紹介されました。

◆ 第9回地域医療ゼミ(2022年1月24日/オンラインにて開催)

熊本県医師会が主催し、熊大病院地域医療支援センターと日本医師会が共催となる「令和3年度医学生・研修医等をサポートするための会セミナー」に参加しました。今回のテーマは、「専門医を取得する!」で、「総合診療専門医取得に向けて」、「内科専門医制度について」、「未来を創る子供たちを守るのが小児科専門医」と題して3人の先生から講演いただきました。

◆ 第10回地域医療ゼミ(2022年2月2日/オンラインにて開催)

地域医療・総合診療実践学寄附講座が主催する第18回総合診療グランドラウンドに参加しました。「事例から深める総合診療 イギリスと日本の比較」の演題で、イギリスと日本両国の診療に通じておられるNTT東日本関東病院の佐々江龍一郎先生に講演いただき、今後の日本の総合診療専門医について考える機会を得ることが出来ました。

◆ 第11回地域医療ゼミ(2022年3月24日/対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、対面による開催となりました。学生29名が参加し、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



2. 令和3年度卒業生

● 村上 考利

私は8年間という少し長い期間、大学にお世話になりましたが、振り返ってみるとあっという間の学生生活でした。その中でも地域医療ゼミでの活動の思い出について、卒業というこの節目に思い起こさせて頂きます。

最も印象に残っているのは、1年生の夏季実習です。当時は基礎医学を学習し始めたばかりで、ましてや臨床の知識など微塵も持たない状態での実習でした。それどころか、宿泊合宿ということで楽しそうだな、という気持ちで参加していたのを記憶しています。しかし実習が始まると、当時の実習地である阿蘇の地域医療について学ぶことから始まり、阿蘇医療センターでは実際に実習させて頂いたり、医学部に入学してから初めて臨床というものに触れる機会を頂きました。特に実習の中でも地域医療の現場を体験できることは、卒業を控えた今考えても貴重な経験だと感じます。見知らぬ施設や機械から始まり、実際に診察する様子、行われる手技の数々…全てが新鮮で興味深いものでした。やはり初めて実習をした時のことというのは大変印象に残っており、当時の経験から今思う理想の医師像が形作られたのかなと思います。高学年になってからは、テストやコロナもあり中々実習の機会に恵まれませんでした。そのため、もう少しゼミに参加するようにすればよかったなという後悔もありますが、研修医になってからも初めて実習した時の気持ちを忘れず、何事も自ら積極的に取り組んで行きたいです。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習等でお世話になりました多くの方々へ心より感謝申し上げます。8年間という長い学生生活、ご迷惑をお掛けすることも多々あったかと思いますが、暖かくサポートして下さい、大変お世話になりました。今後は医師として微力ながら熊本に恩返し出来る様、日々医療に邁進して参ります。

● 鶴田 恵理

6年間はあっという間で、テストや部活、バイトに明け暮れるうちに気づけば卒業の日が迫っていました。特にこの2年間は新型コロナウイルスの影響もあり、一瞬で過ぎ去っていったように感じます。最初に地域医療・総合支援実践学寄付講座の方々にお会いしたのは入学前の追いコンのときで、緊張して参加したのですが、先輩方とお話させていただく中でみなさんの温かい雰囲気を感じました。

地域医療ゼミでは上級生の方々と臨床推論をしたことが記憶に残っています。1年生のころ参加したときは基礎の知識もない状態で、何がなんだか全く分からなかったのですが、5年生の方に臓器の働きから説明していただきながら最後の診断まで一緒に考え、先輩方が偉大な存在に感じたのをとても覚えています。

夏季実習は毎年異なる地域に伺い、多くのことを学ばせていただきました。夏季実習では学年を分けて実習する機会が多く、低学年時は病院や診療所というよりも、老人ホームや保健センターといった場所に行くことが多かったです。当時は現場で働く方々のお話を伺うことで精一杯でしたが、今振り返ってみると、将来同じ職場ではなくても、地域で医療をしていく中でかかせない方々がどのようなところでどういうことをされているのかを間近で見て、実際に体験することができたのは貴重な経験だったと思っています。学年が上がってからの夏季実習には、テストやコロナなどで参加することはできませんでしたが、大学の实習などで地域の病院に行く機会があり、入学当初は漠然としていた「地域で働く」ということが、少しずつ自分の中で想像することができるようになりました。

最後になりましたが、地域医療・総合支援実践学寄付講座の先生方、スタッフの方々には、6年間大変お世話になりました。地域ゼミや夏季実習を通して学んだことを活かしながら成長していけるよう頑張ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

● 白奥 光一

気が付くと早いもので、卒業となることになりました。入学したての頃は卒業まで6年もあり、とても遠いと思っていたのですがあっという間でした。近年は新型コロナウイルスの影響もあり、大学の实習や対面での授業にも支障をきたす場面もありました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習なども一部中止となり大変残念でしたが、今まで多くの実習に参加させていただきとても勉強になりました。

6年間の振り返りとして、入学したての頃は地域医療についてどういったものなのか曖昧でしたが、大学での地域実習や地域枠での地域医療ゼミや夏季の地域実習などを経験していくにつれて地域でどういった医療が求められているのか、この地域ではどういった特徴があるのかなど、実際に現地で実習をすることで得られるものがたくさんありました。また、学年が上がっていくにつれて、必要になっていく医療の知識がどんどん増えていき、勉強しなければならぬことがたくさんあると感じました。

また、在学中には熊本での地震や人吉での水害などありましたが、多くの方と共に協力し合い乗り切ることができました。当時は不安などもありましたが、様々な経験をすることができました。特に熊本での地震の際は1年生として入学したてで、当時はまだ知り合ったばかりの同級生と助け合ったり、顔を合わせたことがなかった先輩方にも助けをいただいたりとお互いに協力し合うことの大切さと暖かさを感じました。

近年は新型コロナの影響もあり、以前と学業や生活ががらりと変わってしまった部分も多くあると思います。これからも実際どのように変わっていくのかは分かりませんが、もし困っている方がいれば自分から手を差し伸べることができるような人間になればと思います。

最後になりましたが、地域医療支援センター、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様には大変お世話になりました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習などでも多くの方にお世話になりました。今後もよろしくお願いいたします。

● 佐藤 実紗

月日が経つのは早いもので学生生活も終わりを迎えようとしています。先日国家試験を終え、現在は卒業と新生活の準備を少しずつ進めているところです。

私たちは入学直後に熊本地震があった学年であり、大学の授業が始まる前にしばらく同級生と会えない生活が続いていましたが、そのときに地域医療ゼミの事務の方が安否を気にかけてくださり本当に感謝しております。

6年間の活動の中で最も印象的なのは夏季地域実習です。地域に実際に出向いてその場所で実際に暮らす方々や診療していらっしゃる先生方のお話を聞くことは普段の実習ではなかなかできないことで、とても密度の濃い時間でした。医療資源に限られる地域では、診療において教科書的な判断ではなく実際にはその方の家族背景等を加味して考えることが大事だということも勉強になりました。また実習では自治医科大学の方と話す機会が多くありとても楽しかったです。またこれからも頑張ろうというモチベーションになっていました。

普段の地域医療ゼミはコロナ渦の中ではオンラインという形で先生方が企画を考慮くださり、多くの先生方のお話を聞くことが出来ました。すでに卒業された地域枠出身の先生がどんなキャリアを歩まれているかを話してくださる時間もあり、自分がどんな方向に進んで行くのかをイメージしやすくなりました。

6年間多くの方に支えられて勉強や部活、遊びどれも全力で取り組むことが出来ました。これからは今までの生活とは一変し社会人としての生活が始まりますが、周りへの感謝を忙しい日々の中でも忘れないように過ごしていきたいです。

地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、事務の方々、そして県の医療政策課の方々、これまで多大なるご支援をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで安心して大学生活を送ることが出来ました。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

● 武元 勇人

入学当時、大学生活6年間はとても長いだろうなと思っていましたが、あっという間に卒業となりました。この6年間でふり返ってみると、とても充実し学びの多い6年間でした。入学したての1年生の頃は医学の知識もほとんどなく、上級生の先輩方に様々なことを教わりながら地域ゼミに参加していました。自分が上級生になって、あの頃先輩たちから教わったことを思い出すことで、勉学への理解がより一層深まったことも多々ありました。また、後輩たちに地域ゼミをどのようにして楽しんでもらうかを考えることは予想以上に難しく、先輩たちの偉大さを感じました。

さらに夏季実習では、自治医大生と共にフィールドワークや意見交換会などを通して地域医療の現状を

知るだけでなく、熊本地震や水俣病といった熊本の医療に携わっていくうえで知っておくべき出来事も、実際にその地域に足を運び深く学習したことはとても印象に残っています。

このようなゼミや夏季実習で様々な学びや地域の医療に携わる人たちの考えに接していくうちに、初めのうちはぼんやりとしていた地域医療についてくっきりとしてきて、その中で自分が将来どのように地域医療に携わっていけばいいか、また、どのようにすれば地域の医療に貢献できるかなどの考えが年々具体的になっていきました。これもすべて地域ゼミの機会を設けてくださった多くの方々のおかげであり、これらを通して考えたことや感じてきたことを活かしてしっかりと地域の医療に貢献をしていけたらと思います。

● 高橋 啓太

長い道のりに思えた6年間の大学生活は小学校の6年間とは違い、あっという間に過ぎてしまいました。大学に入学した6年前、今の自分の姿を想像することはできませんでした。

入学式が終わり学年での合同合宿で同級生のことを知って、これからスタートだというタイミングで熊本地震が発生しました。ライフラインが止まり、1日1日の生活を考えながら過ごしていたら、あっという間に5月になっていました。この1ヶ月はこの6年間で最も短く感じた1ヶ月でした。

毎月開催される地域医療ゼミや夏季実習は、学年の垣根を越えて地域医療を深く考える特別な時間でした。特に印象に残っているのは、夏季実習で益城のテクノ仮設団地に訪問生活調査を行ったことです。皆で麦わら帽子をかぶり、1軒ずつお話を伺ったあの時間を忘れることはありません。その日宿泊した阿蘇の露天風呂が非常に気持ちよかったことも忘れないでしょう。ここ2年間は新型コロナウイルスの猛威により夏季実習は開催されていませんが、地域枠で入学したからこそ、学生のうちに県内各地域の医療や産業、食を自分の体で感じる事ができたと思います。

新型コロナウイルスの影響は病棟実習にも及び、リモートでの実習期間も長引きました。自分の目で見て手を動かす経験は通常より減りました。国試直前期も大学の図書館や勉強部屋が使えないなどありましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様のサポートもあり、無事に卒業の日を迎えることが出来そうです。6年間ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

● 持田 香織

6年前に入学したときには、卒業はとても先のことだと思っていましたが、卒業を間近に控えた今振り返ってみると本当にあっという間の6年間でした。そしてこの6年間で数えきれないほど様々な経験をすることができました。6年間の地域医療ゼミ中でも特に印象に残っていることは、夏の地域医療特別実習と5年次のゼミです。

夏の地域医療特別実習は毎年異なる地域で実施されているため、複数の地域を比較しながら学び、同じ熊本とはいえ異なる特性や課題点を実際に自分の目で見て感じて学び取ることが出来たことは、大変貴重な経験でした。卒後地域で従事させていただく際にも、その地域を知り、そして地域に寄り添った医療を行えるよう、夏季実習から得た学びを活かしていきたいと考えています。

5年次には幹事学年として地域医療ゼミを運営することとなりましたが、ちょうど新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめた頃で、例年のように4月からスタートを切ることが出来ませんでした。先生方にサポートしていただいたことで、Zoomを使ってゼミを行うことができました。それまでの対面でのゼミを踏襲しつつZoomでも可能なやり方で行うことは大変でもありましたが、4年までと違い自分たちで内容の提案を行うために、将来地域に従事する医学生として学ぶべきことは何か、今の自分たちに足りないことは何かをより深く考える機会となり、大変学びの多い1年でした。

6年間の学生生活を終え、スタートラインに立つことになりましたが、大学で培った経験や多くの学びを糧とし、これからも少しずつ前に進んでいけるよう精進したいと思います。

6年間本当に沢山の方々にお世話になりました。関わって下さいました全ての方々にご心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

● 吉岡 幸英

入学時には長いと思っていた6年間も、今振り返ってみるとあっという間のように感じています。入学して数日の地震に始まり2年間のコロナ禍での病院実習で終わるという通常では体験することのできない、濃い6年間を過ごすことができたと思います。この6年間を金銭面などの憂いなく過ごすことができたのも、熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげであり、大変感謝しております。地域枠の活動としては1年次の夏季地域医療特別実習が特に思い出に残っています。前述した震災直後ということもあり、益城町に設置された仮設住宅にて聞き取り調査をさせていただきました。この聞き取り調査で、普段生活している中では気付くことができないほどに当たり前存在している、住んでいる地域で形成されたコミュニティの重要性を学ぶことができました。この経験は自分の中で地域医療について考えるきっかけとなりました。まだ医療については何も学んでいないと言っても過言ではないような1年生ではありましたが、このような機会に早めに恵まれて良かったと思います。

また、毎月開催される地域医療ゼミでは医療関連の知識を深めるだけでなく、物事の考え方についても学ぶことができました。参加させていただいた多くの会で様々な角度から「こんなことに疑問を持ってみてはどうだろう」という導き方をされていて、疑問を持って物事を見ていくことで理解が深まっていくのを実感することができました。他にも、あえて低学年の学生を指名して発表をする場面を与えてくださるのは、人前での発表を苦手としていた自分にとってはとても良い経験になりました。

ここに書いたこと以外にも多くのことを熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげで学ぶことができました。来年度からは医師としてここで学んだことを活かしていくよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

● 五江 景明

自分は地域医療ゼミには2年生から参加させて頂きました。大学生活の後半は新型コロナウイルス感染症の流行があり、ゼミの活動も制限されてしまいましたが、地域医療ゼミでは多くのことを学ばせて頂きました。

毎月の地域医療ゼミでは、実際に地域医療に従事されている先生方のお話を拝聴したり、専門医制度や自分のキャリアについて考えたり、その他シネメディケーションなどを通じて学年を超えて多くの方と議論したりと、色々な角度から医療というものを考えることができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

また、色々な活動の中でも特に印象に残っているものはやはり夏季実習です。私は天草と水俣の2回の実習に参加させて頂きました。県外出身の私にとって、自分が将来仕事で関わるかもしれない県内の地域医療の現場に行くことはとても貴重な経験となりました。実際に地元の方たちとお話したり、問題点等も含めて地域の実情を自分の目で見たりすることで、医療だけではなく文字通り地域そのものについて理解を深めることができました。

夏季実習に参加する前の私は、地域医療とは基本的には住民の高齢化が進んでおり、医師や医療設備が十分でない地域で行われる医療である、という漠然としたイメージしか持っていませんでした。そして、どこの地域でも抱えている問題は程度の差こそあれ、大きな違いはあまりないのではないかと考えていました。しかし、夏季実習に参加したことで、一口に地域医療と言っても、住民のライフスタイルや医療に関する考え方、疾病構造等は地域ごとにそれぞれ異なるということをもっと実感できました。今後医師となって地域医療に従事する際には、目の前の患者さんは勿論のこと、それ以外にもその地域に関する様々なことに興味を持って地域医療に取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、長きに渡り貴重な学びの機会を提供して下さいました先生方、関係者の方々には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。